

## 第一次大戦時の英米 “シヨック委員会” とその周辺

栗本宗治

ロンドンのベイリスとボストンのキャノンなどのシヨックに関する共同研究は、実験ならびに臨床経験をもとに報告書にまとめられた。

クリーブランドではクライル（一八九九）、ウィガース（一九五〇）などの研究がある。

心拍出量測定を用いての研究はハリソンとブレロックのグループが行った（一九二七）。

以上を考察する。

（西宮市）

## 第二次世界大戦末期のルソン島における日本陸軍の衛生状況と米軍の人道的行為

守屋正

一九四五年九月、十月頃の終戦直後のルソン島における日本陸軍の高度の栄養失調患者の実態と病院風景、その他を供覧する。フィリピン戦線においては約六十万人の将兵は約十万人に減少した。原因は敵弾にもよるが、主として飢餓とマラリアなどに因る。栄養失調患者は、い、瘦型と浮腫型とある。後者の方が予後が悪い。

米軍はマニラ南方のモンテンルパのニュービリビッド刑務所内に臨時に、第一七四兵站病院を日本軍将兵、一般邦人のために開設した。治療は主として日本軍の衛生要員が担当した。一九四五年九月から十一月初頃までが最も死亡率が高く、約四千五百名が死亡した。

初代院長テオドル・L・ブリス中佐（メイヨー・クリニッ

ク出身)は出征前オハイオ州アクロン市立病院内科部長をしており、極めて人道的な人で、乾燥人血漿を十一月頃から多くの反対をおし切って高度の栄養失調患者に使用した。

この薬品は米国民の献血による製剤(箱には愛国者の血液により製造と記してあった)のため、使用反対があったものと思う。また当時米国民も使用を禁止されていたベニシリンも無制限に使用された。食餌も著しく改善され、十一月頃から死亡率は激減した。

十一月末にさらに南方約二十軒のカンルバンに広大な新病院が建設され、死亡率は殆どゼロになった。翌年十二月にこの病院は閉鎖された。

ブリス中佐をはじめ、歴代院長(三名)は全て親日的、人道的であった。

一九六六年四月同病院に勤務した衛生要員はブリス博士夫妻を謝恩のため日本に招待し、日本政府は博士の人道的行為に感謝し、勲三等旭日中綬章を贈った。

(京都府医師会)

## 陸軍戸山学校について

清水勝嘉

陸海軍には軍人を養成するために各種の学校が設置されていた。

このうち陸軍戸山学校は将校下士官に体育指導技能を習得させることを目的に明治六年に創設されている。

陸軍省沿革史の明治六年八月二十日の項をみると、「兵学寮ニ戸山出張所ヲ設ケ、陸軍大佐長坂昭徳ヲ以テ事務掛トナス、是レヨリ先キ八月七日戸山学生概則ヲ定メ、歩兵各隊ニ附属スル上下士官中若干員ヲ募集シテ学生トシ、諸科ノ教官ヲ以テ之ヲ教授セシム、是レ全国各軍隊ノ操法勤務ヲシテ一定ニ帰シ、各上下士官ノ學術ヲシテ進歩セシムンカ為メナリ」とあり、翌七年二月四日にこの戸山出張所を戸山学校と改称し、兵学寮の第三学舎を廃止し、これに移管した。

明治軍事史は陸軍戸山学校所蔵の陸軍戸山学校歴史を資